

1979—1980

委員会活動方針



鹿児島西ロータリークラブ

## 会 長 挨拶

会長 川 上 鐵太郎

皆さまのご推せんによりまして、本月より当クラブ会長の任をけがすことになりました。当クラブは、昭和38年3月創立以来、歴代会長はじめ会員の方々が奉仕の心により、立派な業績を挙げて参られたのでございまして、学なく、徳なくいたずらに当クラブに10年余を過して参りました自分を省みまして、果してその任に耐えられるか懸念いたす次第でございしますが、非力ながら、これからの1ガ年、皆様のご協力におすがりして、鋭意努力して参りたいと存じます。

1979年は、国際児童年であり、1980年は、R.I.創立75周年、日本に初めてロータリー・クラブが誕生して満60年の還歴の年、また、当クラブが創立してから満17年で、人間なら大学入試を前に控えた年で、何れも意義深い年でございます。

先月東京サミットが開かれましたように、世界は、平和を願って努力しつつございます。民族、宗教、イデオロギー、国家の壁を取り除いて、話し合いと思いやりの関係を保ち、人類全体の利益と幸福を考えようと骨折っているやに見えます。日本においても、全体を忘れ、核家族化、利己的孤立化する非人間的傾向への反省が見え始め、世界的に人間復興のかすかな灯が見えているのでございます。

この時に当り、ジェームス・L・ボーマーR.I.会長は、「奉仕の灯で道を照らそう」と呼びかけられました。シェクスピアは、「ベニスの商人」の中で、ポーシアに、「小さいろうそくの光が遠くに及ぶように、良い行いは、よこしまな世に輝く」と言わしめております。また、メーテルリンクの「青い鳥」の中では、光が、チルチルとミチルに、こう話しかけています。「わたしはね、広い月の光の中にも、キラキラ光る星の中にも、毎朝のぼる朝日の中にも、毎晩ともされるランプの中にも、それから、お前たちの魂の中にもいるんだから」と。私どもロータリアンは、この灯に一滴でも油を注ぎ、

より明るい、より平和な世界が照らしだされるように力を尽したいものと存じます。

いま、アジアの子供達は、このチルチルとミチルのように、両手で光を求めております。この鹿児島には、多くのアジアからの留学生が学んでおります。私どもロータリアンが、足元のホームクラブ、それぞれの職場から、日本の社会へと、友愛の輪を拡げていき、その次に、まずなすべきことは、アジアに対する奉仕であると存じます。

日本にも、「貧者の真心の一灯は、長者の見栄の万灯よりも明るく、永く輝き、価値の高いものである」というお話があります。たとえ、私どもロータリアンひとりひとりの灯は小さくとも、その小さな友愛の灯が数多く集まれば、それは必ず、大きく明るい輝きとなって、人類の平和と幸福に役立つものと信じます。

私どもロータリアンの心の中には、光と愛があるはずです。この光と愛で自分のクラブを、職場を、青少年を、地域を、世界を明るく包んでいくことに努力して参りたいと存じます。

そのためには、少しでもその思いやりの、友愛の、奉仕の輪を拡げるために、クラブの会員をふやさねばなりませんし、そして、会員同志が、お互いに、親睦を深め、ロータリーの理念の理解を究めなくてはなりません。

そこで、本年度は、会員10%増加と、例会出席率100%実現を目標としあわせて、親睦をかねた学習会をさらに推進し、また、文化活動、スポーツにも足がかりをつけたいと存じます。

このような内部的基盤を造ると同時に、外部に対する職業、社会、青少年国際の各奉仕活動を強力に進め、また、広報、会報を通じて内外に対し、新企画により、ロータリーの理解を深める活動を行い、R.I.への協力としてはフェロー、準フェローの増加に皆さまのご協力を願い、このような諸活動をもって、R.I.会長のメッセージに応えたいと存じます。

以上、私の本年度クラブ運営の方針を申し述べましたが、どうぞ、会員の皆さまには、この主旨にご賛同下さいまして、各委員会におかれましては、

意欲的活動をご計画いただき、会員のひとりひとりが思いやりの心で、助け合いを実践しているのだという自信と、誇りと、満足を感じ得るように、力を合せて参りたいと念願し、お願い申し上げます。

## 幹 事 挨 拶

幹事 川 田 恵 一

私は、ロータリー・クラブに入って、相当期間が立ったのですが、今まで不勉強で、今度、大分の地区協議会に出席してみて、今更ながら、幹事職の重要なことを知りました。

幹事のあるべき姿としての、真面目さと、誠実さを目標に、今後1年間がんばってみたいと思います。

川上会長の良き補佐役となれるよう、会員皆さまのご指導をお願いします。本年度R.I.会長ポーマ氏のメッセージは、「奉仕の灯で道を照らそう」でございますが、私も、西クラブの諸先輩方が営々として築いてこられた奉仕の炬火（たいまつ）を小さくすることなく、一層、輝きを増して、あかあかと、照り輝く奉仕の炬火となって、偏狭、無知、病気、飢餓等人間社会の暗い面に光りをもたらすように、及ばずながら微力をつくしたいと思います。

三角前幹事が、いつも言っておられたように、幹事は、クラブの事務局長でございますので、川上会長の意を体し、会員皆さま方の親睦委員会活動等に、いろいろお手伝い致したいと思いますので、よろしくご協力方お願い致します。



## クラブ奉仕委員会活動方針

副会長 柴 山 一 雄

副会長としてご挨拶いたします。幹事を中心として、会長を補佐することは勿論ですが、クラブ奉仕担当として、小委員会を毎月第一例会で話し合い・第二例会の理事会に反映したいと思っています。私としては、世知辛くなる世相のなかに、クラブのより良い姿を求めつづけていきたいと考えています。

なにとぞ、一層のご協力を、心よりお願い申し上げます。簡単ですが終らせていただきます。

## S.A.A 委員会活動方針

S.A.A. 吉 留 益

副 S.A.A 小 正 芳 史

### 1. 基本方針

秩序正しく、品位あり、しかも、能率的なロータリー・クラブの会合を維持することに助力し、クラブの訪問者、および、来賓に良い印象を与えるようにいたします。

### 2. 計 画

- (1) 会員が、早く各自の席について、混乱のないように、また、着席者間に空席のないように、さらに、いつも、同じ顔ぶれが並ばないように、気を配ります。
- (2) 親睦委員と連絡を密にして、ニコニコボックス等、楽しい、なごやかな例会にするよう努めます。
- (3) 適時、試みとして、テーブルマスターも決めたいと思っております。

## 出席委員会活動方針

委員長 渡 辺 匡  
岩 男 秀 彦  
岩 田 太 一  
池 口 恵 観  
原 三 郎  
水 淵 清 治  
中 島 修之輔

### 1. 基本方針

出席訂正率100%を目標とする。

各種会合への出席を奨励し、全会員に、出席規定を周知せしめるよう努める。

### 2. 計 画

- (1) 連続出席者表彰を本年度も引続き実施する。
- (2) 常に、出席率を把握し、欠席者への連絡を密にする。
- (3) 出席規定については、情報教育の一環として行う。
- (4) ロータリー情報委員会等に協力してもらって、地区大会、その他、上級会合への出席、特に、ホームクラブへの出席の大切なことを、会員にくりかえし強調したい。

## 職業分類委員会活動方針

委員長 佐 伯 寿 郎  
田 平 礼 章  
藤 安 辰 造  
橋 口 十 蔵

## 1. 基本方針

職業分類にもとづく会員組織計画は、ロータリー・クラブの正しく・かつ、積極的活動の基本的問題であるので、理事会と協議して、その任務をつくしたい。

## 2. 計 画

できるだけ早く、おそくとも、8月31日までに、充填・未充填の職業分類一覧表を作成し、必要に応じては、職業分類も再検討したい。

職業分類に関する問題については、理事会と相談しながら作業をすすめてい

# 会員選考委員会活動方針

委員長 城 哲 男

福田 正 臣

小 園 正 人

佐 伯 延次郎

## 1. 基本方針

前年度の方針を維持していくつもりであります。特に、例会出席可能な点に、注意を払いたいと思います。

## 2. 計 画

選考すべき新入会員は、年度を通じて9名位を予定しております。

## 会員増強委員会活動方針

委員長 中 村 善 治  
浜 田 馨  
新 福 栄 熊  
三 角 桂 次 郎

### 1. 基本方針

職業分類委員会、会員選考委員会と連絡を密にして、良質の若い会員を推せんするものとし、増強率約10%を目標とする。

### 2. 計 画

- (1) 全会員に、会員候補者の発見と、推せん方をお願いする。
- (2) シニア・アクティブ会員に、職業分類において、未充填のものがあれば誰か推せん方を依頼する。
- (3) 広報委員会にも、協力をお願いし、報道関係者の増強を図る。
- (4) 5年以上在籍されて、まだ、新会員を推せんされたことのない方に、有望な候補者を見付けるよう相談する。
- (5) ローターアクトに着目する。

## 親睦委員会活動方針

委員長 柿 市 高 重  
桜 美 義 明  
古 木 圭 介  
宇 治 野 純 章  
安 田 正 治  
沢 田 貫 太 郎



山下 皓三  
山口 祐司  
下田平 哲夫

## 1. 基本方針

ロータリーの全ての奉仕活動は、まず親睦からはじまり、相互理解 → 相互協力による奉仕活動に至るものと思われまます。従って、会員相互のまた家族間の親睦が深まる様、巾が広がる様、いろいろ努力工夫いたしたいと思ひます。方法としては、特に新しいものはありませんが、従来の諸先輩のあげられたものを1つ1つ充実したものをもっていくつもりです。

## 2. 計 画

- (1) S・A・Aと協力して、例会毎の席順をなるべく固定化しない様にする。
- (2) 観月会、クリスマスの二大行事において、家族相互の親睦をはかる。
- (3) 新入会員を中心とした三木会の復活を考える。
- (4) 親睦ゴルフ（西クラブ内、他クラブとの合同コンペ）を考えている。  
（年2回程度）
- (5) 勉強会（現在行われている）になるべく多く出席して頂き、この場を通じての親睦をはかる。
- (6) スマイル・ボックスについては、どんな小さなよろこびでも、金額にかかわらず、ともによろこびを分け合っていたきたいと思ひう。

## プログラム委員会活動方針

委員長 岩 元 正 二  
中 村 俊 雄  
徳 田 基

若 松 宇治彦

内 山 光 男

## 1. 基本方針

ロータリーの奉仕活動にふさわしいものであり、会員相互の啓発に役立つように、しかも、バラエティーに富み、楽しく興味あるプログラムを編成したい。

## 2. 計 画

- (1) 卓話者の選定紹介は、毎月各委員交替で担当する。
- (2) 会員の卓話も有益であり、会員のご協力のもとに、プログラムに盛り込みたい。
- (3) ロータリーの行事週間については、タイムリーに取り入れていく。

# 広 報 委 員 会 活 動 方 針

委員長 徳 沢 紀 生

幸 泉 芳 良

池 田 稔

和 田 吉 人

## 1. 基本方針

ロータリーに対する、地域社会の認識、理解および、支持の基盤拡大を計るため、広報活動を通じて、ロータリーの奉仕活動等を一般の人々に、より広く知ってもらうよう、計画をたてて、積極的に実行する。特に、75周年記念祝賀に関係する事項を重点とする。

## 2. 計 画

- (1) 報道機関（新聞・ラジオ・テレビ）および、関係官庁広報担当者との

- 連繫を密にし、広報関係者との会合を催す。なお、市内他クラブと連絡し、報道関係者との合同連絡協議会を開催する。
- (2) 特に、報道機関の記事に掲載したい行事がある場合は、クラブ例会その他の会合に招待する。
  - (3) 報道価値のある情報（交換学生、留学生等）については、「ニュース」資料を報道機関および、関係官庁の広報担当者に送付する。
  - (4) ロータリー関係の書籍、特に、「ロータリーの友」、「75周年記念号」、「クラブ週報」等を、一般の人々が目につき易い図書館、県民室市役所、公民館等に配布する。
  - (5) 報道機関の関係者、特に、当クラブは、新聞関係の会員がいないので会員増強委員会と連繫して、入会に努める。
  - (6) 参考出版物「実践できる広報」および、「あなたの町では、ロータリー・クラブは如何なるものと考えていますか？」の両書を購入する。
  - (7) 75周年記念祝賀関係は75周年記念委員会と協議し、別途計画する。

## ロータリー情報委員会活動方針

委員長 瀬戸山 勝 資  
山下 静 雄  
平岡 禎 吉  
鮫島 志芽太

### 1. 基本方針

#### 細則8条(i)項

すなわち、ロータリー・クラブの特典と責務に関する情報を、

- (イ) 会員候補者に提供。
- (ロ) 会員、特に、新入会員に適切な理解を与え、ロータリーの歴史、綱領規模、活動に関する情報を提供する。

(ハ) 国際ロータリーの管理、運営の動向について情報提供。

## 2. 計 画

(1) 前年度に引続き、希望者による「ロータリー学習会」を、毎月1回開催する。親睦委員会と共催にしたい。

テーマによっては、各委員会との共催を計りたい。

(2) クラブの催事、上部会合等の解説を週報に掲載。

(3) 毎例会に「3分間情報」の実施。

(4) 例会場に、標語「入りて学び、出でて奉仕せよ」等の掲示。

## 会報・雑誌委員会活動方針

委員長 中 尾 正 昭

岡 山 栄

河 井 時 義

桜 美 四 郎

谷 山 寛

松 田 徳 平

### 1. 基本方針

週報を通じて、会員の親睦増進と、また、全会員が、有意義なロータリー活動を推進できるよう努める。

### 2. 計 画

(1) 各委員長と連絡を密にし、ロータリー教育に寄与する記事を週報にのせる。

(2) 「ロータリアン誌」を、ローターアクト、インターアクト（鶴丸、鹿児島各高校）に配布する。

(3) 週報様式を刷新する。



## 職業奉仕委員会活動方針

委員長 高 井 敏 治

二階堂 正 明

牧 田 健 二

久保田 彦 穂

木治屋 克 巳

### 1. 基本方針

職業奉仕は、ロータリアンの義務であり、常時行なわねばならないものである。委員会としては、個々のロータリアンが、「ロータリー精神を、その職場に生かす」のを、助ける仕事の調整をはかることである。

### 2. 計 画

- (1) 職業奉仕の概念について、各ロータリアンと研修する。
- (2) 優良職場を訪問し、職業奉仕に関する見聞を広め、優良職業人の表彰を行う。
- (3) 事例研究を実施する。

## 社会奉仕委員会活動方針

委員長 田原迫 卓 視

肥 後 克 郎

小 山 幸 義

岩 元 基

新 原 剛

### 1. 基本方針

他の委員会と連絡を密にしながら、地域社会のニーズを調査研究し、奉

仕活動の推進に努める。

## 2. 計 画

- (1) 老人福祉乃至、保護対策の推進に協力する。
- (2) ローターリー賞の継続。
- (3) 交通安全運動に協力する。
- (4) 都市美化運動に協力する。

## 青少年奉仕委員会活動方針

委員長	林	其	為
	太	原	春
	川	畑	正
	高	橋	司
	福	田	敏
	篤	辰	雄

### 1. 基本方針

青少年の健全育成に対する助成と、道義の高揚と地域社会における奉仕活動を、積極的に推進し、他団体とも密接な連絡をとり実践する。特に、I.A.C.、R.A.C.の部長と連絡をとり、円滑に運営していきたい。

I.A.C.、R.A.C.の活動については、今までの活動をそのままに、より良い指導者、助言者であるように努めたい。特に、野外活動および、青少年指導者育成に重点をおく。

### 2. 計 画

- (1) R.A.C.の例会には、多数のR.C.メンバーの出席をお願いし、アドバイス等をお願いする。そして、R.A.C.会員増強にも協力願いたい。

- (2) 野外活動、早朝掃除、施設訪問等必ずR・C・メンバーの参加を要請する。
- (3) I.A.C.活動については、鶴丸高校、鹿児島高校の会員と接触の機会をふやし、特に、先生方との懇談会をもちたい。そして、卓話も数多くして、助力、援助したい。
- (4) 青少年の健全育成の一助として、悪書追放、不健全な場所への立入等不良化防止への指導をしたい。

## 青少年奉仕委員会ローターアクト部会活動方針

委員長 土 橋 滋  
 米 倉 清 嘉  
 藤 都喜七  
 前 田 好 文  
 海老原 利 則  
 中 沢 省 三

### 1. 基本方針

地域社会の指導者となる青年の指導、啓発に寄与し、その若者の行動力を、地域社会への奉仕の精神に生かし、西ローターアクトクラブの充実、発展を計る。

青少年奉仕委員一丸となって、ロータリー精神に基づき、「共に奉仕する」を合い言葉に、沈滞気味のローターアクト再建に努めたい。

### 2. 計 画

- (1) ローターアクト会員の増強を計る。
- (2) ローターアクト例会に、2名以上、必ず出席する。
- (3) ローターアクト273地区年次大会、および、幹部研修会に参加、援助
- (4) ローターアクト例会に委員会別の出席を義務づけ、ローターアクトに対する理解を深める。

- (5) 毎月第一日曜日の早朝清掃に参加する。
- (6) 努めて、各種行事、例会に、ローターアクトを招待し、また、ロータリー・クラブ会員も参加し、助言する。
- (7) 国際理解を深めるべく、330地区との交流（海外旅行、文通等）を計る。
- (8) ローターアクト運営の資金調達に助言し、知恵を与える。

## 青少年奉仕委員会ローターアクト部会活動方針

委員長 下野 隆三  
 谷口 行生  
 大庭 昇  
 岡元 健一郎  
 軸屋 昭二

### 1. 基本方針

インターアクトは奉仕と国際間の理解に貢献し、また青少年としての指導力の養成並に良き市民となるための訓練に重点を置き、之に提唱クラブとして最大の援助指導を行なうよう努力する。

### 2. 計 画

- (1) インターアクトの会員増強。
- (2) 学校長、指導教官、クラブのインターアクト委員、インターアクト委員長との会合を行なう。
- (3) 特に、指導教官、クラブ・インターアクト委員会との会合を多く持つ。
- (4) クラブ・インターアクト委員は、ロータリアンとのパイプ役となり、インターアクト育成のための協力を求める。
- (5) 本年度は、鹿児島地区がホストとして、第15回インターアクト年次大会が開催されるので、全面的協力を行ない、偉大なる成果を上げるよう努力する。



## 国際奉仕委員会活動方針

委員長 池田 一 広

尾辻 省 悟

外西 寿 彦

岩元 紀 彦

### 1. 基本方針

国際理解、親善および、平和を増進できるように、クラブ全会員の参加をお願いするが、本年度は、特に、国際青少年計画に的をしぼって、活動方針としたい。

次に、組合せクラブ、330地区JOHORE BAHRUクラブとの、親善をはかりたい。

### 2. 計 画

- (1) 交換学生の一泊ホストファミリー制をとり、会員全員に経験を通じてその意義を認識してもらう。
- (2) 鹿児島大学にいる45名の留学生の世話を、会員各位にお願いする。
- (3) JOHORE BAHRUクラブとの文通その他により、友愛を深める。
- (4) その他、世界社会奉仕については、地区に協力する。

財団関係は、小委員会、財団委員会の計画どおり。

## ロータリー財団委員会活動方針

委員長 久保 政 次

川村 洋

岩元 健 吉

山田 裕 三

## 1. 基本方針

ロータリー財団に関する情報を広め、これに対する支援を促進し、諸種のロータリー財団プログラムに対する、クラブレベルでの協力を奨励するという、本委員会の基本的任務を忠実に実行したい。

## 2. 計 画

- (1) ロータリー財団の目的の、会員および、一般への広報活動。
- (2) ロータリー財団週間（例会日11月15日）の活用。
- (3) 補助金候補者の推せんと、受領者との接触。
- (4) 百万\$食事（年5～6回）による、財団資金への支援。
- (5) ポール・ハリス・フェロー、準フェローの募集。

## 75周年記念委員会活動方針

委員長 徳 沢 紀 生  
柴 山 一 雄  
田原迫 卓 視  
高 井 敏 治  
岩 元 正 二  
中 尾 正 昭

## 1. 基本方針

クラブの内祝と、ロータリーの地域社会へのPRを主眼とし、75周年記念を迎え、会員のロータリー意識を、更に、昂揚し、広報に役立ち、できるだけ後世に残る事業を重点的に計画実施する。

## 2. 計 画

- (1) 記念祝賀会は、市内5クラブ協議の上、昭和55年2月23日を開催

予定日として、合同祝賀会とする。

(2) 記念講演会の開催。

(3) 永年、クラブの運営に功績のあったロータリアンの表彰。

(4) ~~ロータリー賞の贈呈~~ <sup>西ロータリークラブ奨学基金制度の創設</sup> (社会奉仕委員会と協議)

(5) 記念植樹 (インターアクト委員会と協議)

(6) 週報の75周年記念号を作成する (会報・雑誌委員会と協議)

~~(7) クラブ会員の職場における優良従業員の表彰 (職業奉仕委員会と協議)~~

<sup>(7)</sup>  
(8) R.I.の3-Hプログラムに基く、75周年記念基金として、会員1人  
当り最低15ドルを寄附する (国際奉仕委員会と協議)

<sup>(8)</sup>  
(9) ポール・ハリス・フェローをクラブ内に、できるだけ多く作るように  
努める (ロータリー財団委員会と協議)

<sup>(9)</sup>  
(10) ローターアクト、インターアクトの祝賀行事の指導 (青少年奉仕委員  
会と協議)

<sup>(10)</sup>  
(11) 広報委員会は、75周年記念祝賀の地域社会へのPRを重点として実  
施する。